渋沢栄一と埼玉の近代　－創業期の日本煉瓦製造株式会社－

１　期間　　平成23年6月7日（火曜日）～平成23年9月18日（月曜日）
※　休館日　：　毎週月曜日、国民の祝日

２　展示場所　　埼玉県立文書館　1階展示室

３　観覧料　　無料

４　展示資料点数　　約50点

渋沢栄一（埼玉県ホームページより）

重要文化財　ホフマン輪窯内部

開催にあたって

渋沢栄一は、天保11年（1840）に現在の深谷市血洗島に生まれ、昭和6年（1931）に91歳で亡くなりました。本年は、その没後80年にあたります。栄一は生涯にわたり、500以上もの会社に関わってきたと言われていますが、中でも、明治20年（1887）10月25日に、設立された日本煉瓦製造会社（後に日本煉瓦製造株式会社）は、栄一の故郷である血洗島近くの深谷市上敷免に工場が建設されました。ここで焼成された煉瓦は、東京駅をはじめとする建築物に使用され、日本の近代化に大きな役割を果たしました。

同社は、平成18年（2006）6月30日をもって、約120年にわたる操業を停止しますが、国の重要文化財である当時の事務所や煉瓦製造窯等は深谷市に寄贈されて、現在に往時の姿を伝えています。また、創業時の文書約750点余は現在、当館に深谷市より寄託されています。

本展示では栄一の没後80年を記念し、日本煉瓦製造株式会社文書から創業期の様子や同社と栄一を取り巻く人々の動きについて紹介しようとするものです。

本展示が、県民の皆様にとって近代埼玉の歩みを理解するための一助となれば幸いです。

平成23年6月　埼玉県立文書館

1　日本煉瓦と渋沢栄一

日本政府は明治19年（1886）、洋風建築を公官庁に取り入れるため、井上馨を総裁に臨時建築局を設置しました。当初は官営の煉瓦工場を建設する予定でしたが、資金面から断念し、民間の工場にて製造されたものを買い取る方針に転換しました。

臨時建築局は政府の御雇外国人を派遣することを条件に民間の事業者に働きかけ、煉瓦製造会社を設立することを勧めました。その一人が、榛沢郡血洗島村出身の渋沢栄一です。

渋沢は、井上から働きかけを受け、三井物産会社の益田孝と共に煉瓦工場の誘致を行いました。同時に、臨時建築局の仲介で、千葉県下で煉瓦製造の実績を持っていた池田栄亮・隅山尚徳と共に製造会社を設立することになりました。

工場の建設に招聘された御雇外国人技師ナスチェンテス・チーゼは、粘土採掘地の調査と煉瓦製造、またエルンスト・エーメーは、工場器械の買入と設置について指導しました。

明治20年（1887）10月25日、池田栄亮を理事長として日本煉瓦製造会社が設立され、翌21年（1888）に、上敷免村と新井村にまたがる敷地に上敷免工場の建設が着工されました。

明治 20 年 10 月 25 日　日本煉瓦製造会社設立願【日本煉瓦 757】

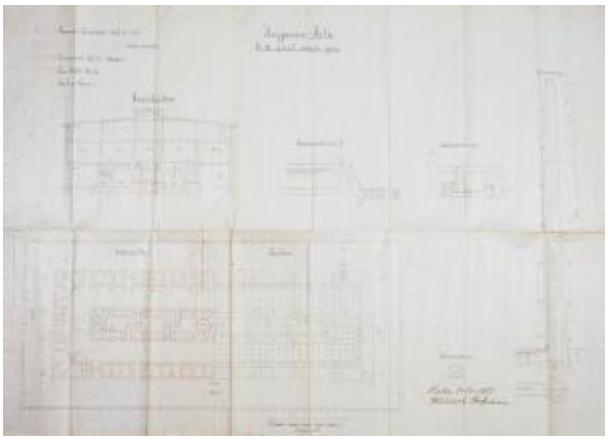
2　創業期の日本煉瓦製造株式会社

ドイツから煉瓦製造の技師・チーゼを招き、明治 21 年（1888）に第1号窯が完成しました。その後、全部で 6 基の窯が作られ、現在国指定重要文化財となっている6号窯が建造されたのは同 40 年（1907）のことです。ドイツ人ホフマンが考案したことから、「ホフマン式輪窯」と呼ばれています。

これら煉瓦製造窯は、高さ約 50mにも及ぶ煉瓦積みの煙突をもち、当時の最先端技術を駆使した最新式のものでした。工場の敷地内にそびえたつ煙突を見て、近隣の人々も日本の近代化を実感したことでしょう。

明治 26 年（1893）、社名を日本煉瓦製造株式会社に改称した同社は、日清戦争後の建築ブームにものって、東京以外でも煉瓦建築の建物がつくられるようになると、高品質な上敷免製煉瓦の需要はますます増加しました。

工場設立当初、煉瓦は利根川などの水運を利用して船で首都東京まで運ばれていましたが、明治 28 年（1895）7月には専用鉄道が敷かれました。大量の煉瓦を、迅速に安全に輸送するために専用鉄道を敷設するというアイデアは渋沢栄一の発案といわれ、煉瓦工場から深谷駅に至る約 4kmの路線は、民間企業による鉄道敷設としては国内初のものでした。



五号窯原図【日本煉瓦1】

3　幻の東武煉瓦株式会社と金町製瓦の合併

明治 40 年（1907）2 月、渋沢栄一は、専務取締役の諸井恒平、東武鉄道株式会社の根津嘉一郎、日本の紡績王と呼ばれた鐘淵紡績会社や日清紡績会社を設立した日比谷平左衛門らとともに東武煉瓦株式会社の設立を計画し、発起人となりました。会社は埼玉県杉戸町に工場を建設する予定でしたが、この計画は結局実行されませんでした。その理由として煉瓦製造業界の経営悪化がありましたが、明治 21 年（1888）

に東京府金町村（現葛飾区）に設立された金町製瓦株式会社の急成長もあったようです。

金町製瓦は、大正 5 年（1916）に江戸川改修とともに工場を金町から潮止村（現八潮市）に移転し、さらに翌 6 年には亀有工場を足立区内に建設しました。このような、金町製瓦の動きに対して日本煉瓦では、金町製瓦と合併の動きが持ち上がり、交渉は難航しましたが、最終的には大正 7 年渋沢栄一の斡旋により合意に達しました。

金町製瓦株式会社を合併した、日本煉瓦製造株式会社は、上敷免工場のほかに潮止および亀有の 3 工場に 10 基の焼成窯を有する一大煉瓦企業に発展しました。

東武煉瓦株式會社發起人總會議案
第一項 株式ハ發起人及ビ賛成者ニ於テ
引受テ公募募集ヲ為サヽル事
第二項 株式ノ分配ハ明治三十九年十二月
廿四日發起人會決議ノ範圍内ニ於テ
左記ノ如ク多額募集シ發起株ハ
二月廿八日迄ニ賛成株ハ同月同日迄ニ
其引受株數人名ヲ多額委員ヨリ
專務委員ニ報告スル事
一六千五百株 東武鉄道株式会社御
関係者内ニ割当ル
右議決 標津末延ノ両氏

明治 40 年 2 月 19 日　東武煉瓦株式会社発起人総会議案【日本煉瓦 439】

4　渋沢栄一と諸井恒平

諸井恒平は、文久 2 年(1862)5 月 26 日に児玉郡本庄町に生まれました。母の佐久は渋沢栄一の従姉妹にあたります。恒平は若い頃から実業に関わってきましたが、明治 20 年(1887)、渋沢栄一の薦めにより、日本煉瓦製造会社の設立に際し書記として名を連ね、以来、恒平は同社の発展に力を尽くします。支配人を経て明治 34 年に取締役に、昭和 8 年(1933)には取締役会長に就任します。この間、煉瓦工法の改良や深谷～上敷免間の専用鉄道敷設などを行うことで、社の業績を大きく伸ばしました。

恒平の活躍は、日本煉瓦製造株式会社のみにとどまりませんでした。代表的な事績に、大正 6 年（1917）の日本工業倶楽部（後に経団連・日経連の設立育成に協力）設立、大正 12 年の秩父セメント会社設立、大正 14 年の秩父鉄道株式会社社長就任があります。その他、後進育成のため埼玉県出身の学生を育英する埼玉学生誘掖会を明治 35 年に設立しました。

恒平は、昭和 16 年(1941)に日本煉瓦製造株式会社取締役会長の任期中、78 歳で逝去しました。

渋沢栄一書状（埼玉県学生誘掖会寄宿りょう要義ニ付）【日本煉瓦 299】

5　日本煉瓦と近代化遺産

渋沢栄一は、自身の故郷にも近い上敷免（深谷市）の地に日本煉瓦製造会社を立ち上げました。そしてこの地から供給され続けた煉瓦は首都東京をはじめ日本各地の建造物に用いられ、日本の近代化に大きく貢献しました。近代化遺産である建造物のうち、今日でもその姿を確認出来るものも少なくありません。

渋沢が上敷免の地を選んだ理由として、明治時代上敷免を含めた深谷周辺地域が県内屈指の瓦生産地帯であった点があげられます。瓦材の原土に豊富で、利根川の舟運や高崎線の鉄道交通網などの流通手段にもめぐまれ、この地域で生産された瓦は「深谷瓦」の名で知られるようになります。これらの条件は煉瓦製造の上でも適したものでした。

また明治 5 年（1872）渋沢とその従兄弟尾高惇忠が中心となって日本初の官営製糸工場富岡製糸場（群馬県富岡市）が建設されましたが、その建設にあたって尾高は深谷近辺の瓦職人たちを集め、フランス人技師の煉瓦を見本として自力で煉瓦製造に成功しました。

深谷瓦の生産地としての条件と、瓦職人たちの富岡での煉瓦製造の経験が前提となって、深谷の上敷免の地に日本煉瓦の工場が建設されたのでした。

東京駅

展示資料一覧（期間中に展示替えを行います。全期：全期間　前期：6/7～7/10　中期：7/12～8/21　後期：8/23～9/18）

1　日本煉瓦と渋沢栄一

番号	文書名	年号	文書番号	展示期間
1	明治二十一年一月日誌（明治 19 年 2 月 17 日～22 年 5 月 10 日）	明治 20..	日本煉瓦 199	全期
2	明治廿年理事評議録（10 月 22 日～12 月 24 日）	明治 20.12.3	日本煉瓦 200	全期
3	明治廿一年理事評議録　第弐号（1 月 7 日～12 月 26 日）	明治 21..	日本煉瓦 201	全期
4	明治廿二年理事評議録（1 月 10 日～12 月 30 日）	明治 22..	日本煉瓦 202	全期
5	明治二十三年理事評議録（1 月 12 日～12 月 31 日）	明治 23..	日本煉瓦 203	全期

6	明治廿四年理事評議録(1 月 16 日～12 月 26 日)	明治 24..	日本煉瓦 204	全期
7	明治廿五歳理事評議録(1 月 25 日～12 月 26 日)	明治 25..	日本煉瓦 205	全期
8	日本煉瓦会社定款	〔明治 20.10.22〕	日本煉瓦 615-1	全期
9	日本煉瓦製造会社設立願	明治 20.10.25	日本煉瓦 757	全期
10	日本煉瓦製造会社株式負担人名	〔明治 20.11.7〕	日本煉瓦 758-2	全期
11	煉瓦製造所設立願	明治 20.11.7	日本煉瓦 758-1	全期
12	備前渠用水引用之儀ニ付御願	明治 21.5.9	日本煉瓦 609	前期・中期
13	機械代勘定書並インボイス原書	明治 21.4. 26	日本煉瓦 79	後期
14	雇外国人居留地外住居願	明治 21.5.24	日本煉瓦 610	全期
15	雇外国人旅行免状添書御下付付願	明治 21.6.5	日本煉瓦 603-1	全期

２ 創業期の日本煉瓦製造株式会社

番号	文書名	年号	文書番号	展示期間
16	五号窯原図	明治 30.	日本煉瓦 1	前期・後期
17	第五号窯場乾燥室妻側面		日本煉瓦 151	中期
18	[第四号窯仮上屋新設関係書類]	明治 42.	日本煉瓦 84	全期
19	[化粧煉化石の図面]	[明治 24.]	日本煉瓦	全期

			91	
20	鉄道敷地所分裂届(橋梁架設願)	明治 22.5.10	日本煉瓦 49	全期
21	備前渠用水へ架橋之儀ニ付書付	明治 22.5.10	日本煉瓦 604	全期
22	深谷上敷免間鉄道布設願	明治 27.7.23	日本煉瓦 76	全期
23	深谷上敷免間鉄道機関車使用ノ儀ニ付願書	明治 28.	日本煉瓦 598	全期
24	契約証(敷設工事請負ニ付)	明治 29.	日本煉瓦 599	全期
25	鉄道敷地買入地価取調表・地所売渡証	明治 27.～29	日本煉瓦 47	全期

3　幻の東武煉瓦株式会社と金町煉瓦の合併

番号	文書名	年号	文書番号	展示期間
26	東武煉瓦株式会社発起人会記事	明治 39.12.24	日本煉瓦 436	全期
27	東武煉瓦株式会社創立委員長並創立委員選定ノ件	明治 39.12.25	日本煉瓦 437	全期
28	東武煉瓦株式会社　設立趣意書・目論見・定款	明治 39.12	日本煉瓦 440	全期
29	東武煉瓦株式会社発起人総会議案	明治 40.2.19	日本煉瓦 439	全期
30	［金町製瓦・日本煉瓦関係綴］		日本煉瓦 720	全期
31	第一号煉瓦窯炉及上屋外断面図縮尺五十分之一		日本煉瓦 632-2	前期
32	第一号煉瓦窯炉及上屋断面図縮尺五十分之一		日本煉瓦 632-3	中期

33	［金町製瓦潮止工場平面図］		日本煉瓦 632-1	後期

4　渋沢栄一と諸井恒平

番号	文書名	年号	文書番号	展示期間
34	渋沢栄一書状〔煉瓦会社ニ付〕	〔明治 35〕11.25	日本煉瓦 300	前期・中期
35	渋沢栄一書状〔埼玉学生誘掖会寄宿寮要義ニ付〕	〔明治 37〕12.30	日本煉瓦 299	前期・中期
36	渋沢栄一書状［武上電気鉄道会社ノ義ニ付］	〔明治 39〕11.8	日本煉瓦 297	前期・中期
37	渋沢栄一書状[東京毛織物会社営業ニ関スル沢田半之助氏ノ意見ニ付]	〔大正元〕9.2	日本煉瓦 292	後期
38	渋沢栄一書状[千住製絨所払下ノ件ニ付書状]	〔大正 2〕8.9	日本煉瓦 291	後期
39	渋沢栄一書状［上敷免工場地震被害ニ付］	〔大正 12〕9. 2	日本煉瓦 305	前期・中期
40	渋沢栄一書状[日本煉瓦無配当の由ニ付秩父セメント株引受願度旨]	[年未詳]4.16	日本煉瓦 621	後期
41	渋沢栄一書状[日本煉瓦減資ノ件ニ付書状]	[年未詳]4.17	日本煉瓦 622	後期

5　日本煉瓦と近代化遺産【パネル展示】

番号	文書名	年号	文書番号	展示期間
42	富岡製糸場煉瓦及び瓦の請負に関する書類綴		【県史CH200-3 韮塚家】	全期
43	富岡製糸場			全期
44	渋沢栄一書状［煉瓦石ニ可相用原土堀採旨］	明治 20.4.6	【県史CH200-3 韮塚家】	全期

45	碓氷峠鉄道施設 第三橋梁	明治 26 竣工		全期
46	ローヤル洋菓子店(旧本庄商業銀行倉庫)	〔明治 27〕竣工		全期
47	笹原門樋	明治 34 竣工		全期
48	東京駅	大正 3 竣工		全期
49	誠之堂	大正 15 竣工		全期
50	清風亭	大正 15 竣工		全期
51	ホフマン輪窯外観			全期
52	埼玉新聞平成 18 年 6 月 25 日記事			全期
53	平成 7 年(1995)撮影日本煉瓦上敷免工場		【航 H7 8A-36】	全期